

佐久市埋蔵文化財調査報告書 第233集

岩村田遺跡群 西大門先遺跡

長野県佐久市岩村田西大門先遺跡発掘調査報告書

2015.3

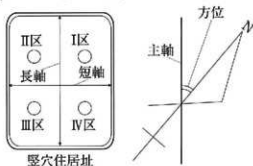
佐久市教育委員会

例 言

- 1 本書は平和不動産株式会社による宅地造成工事に伴う平成26年度岩村田遺跡群西大門先遺跡の発掘調査報告書である。
- 2 事業主体者 平和不動産株式会社 代表取締役 篠澤一平
- 3 調査主体者 佐久市中込3056 佐久市教育委員会 教育長 棚澤晴樹
- 4 遺跡名 岩村田遺跡群 西大門先遺跡 (IDS)
- 5 調査担当者 上原 学
- 6 本書の編集・執筆は上原が行った。
- 7 本書及び出土遺物は、佐久市教育委員会の責任下に保管されている。

凡 例

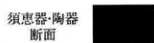
- 1 遺構の略称は以下のとおりである。
H-竪穴住居址 D-土坑 M-溝状遺構 P-ピット
- 2 挿図の縮尺は基本的に以下のとおりである。
遺構-竪穴住居址・溝状遺構・土坑・ピット 1/80
遺物-土器・石器 1/4
- 3 遺物の写真番号と実測図番号は一致する。
- 4 遺構の標高は、水糸高を標高とした。
- 5 調査グリッドは4×4mである。
- 6 遺物表中の [] は推定値、〈 〉 は残存値を表す。
- 7 スクリーントーンでの表示及び遺構の計測、方位は図のとおりである。



遺構



遺物



目 次

例言・凡例・目次	1
第I章 発掘調査の経緯	1
第1節 発掘調査の経緯	1
1 開発事業と保護協議	1
2 文化財保護手続き	1
3 調査体制	1
第2節 発掘作業の経過	1
1 発掘作業	1
2 整理作業	2
第II章 遺跡の立地と環境	3
第1節 地理的環境	3
第2節 歴史的環境	4
第3節 発見された遺構と遺物	6
第4節 基本層序	6
第III章 遺構と遺物	7
第1節 竪穴住居址 (II)	7
第2節 溝状遺構 (M)	16
第3節 土坑 (D)	20
第4節 ピット (P)	20
第5節 遺構外遺物	21

写真



西大門先遺跡調査区位置図(1:50,000)

第I章 発掘調査の経緯

第1節 発掘調査の経緯

1. 開発事業と保護協議

岩村田遺跡群は佐久市岩村田に所在し、佐久地域特有の浅間山の麓から放射状に延びる浸食谷に挟まれた南北方向に細長い台地上（田切り地形）に展開する弥生時代から中世に至る複合遺跡である。周辺は、以前から遺跡の密集する地域として周知されており、道路改良、区画整理事業、店舗建設等に伴う多くの発掘調査が実施されている。

今回、平和不動産株式会社が計画した宅地造成工事予定地域一帯が岩村田遺跡群に含まれることから遺跡の破壊が予測される地域及び遺跡部分の試掘・確認調査を実施する運びとなった。平成26年11月に調査を実施した結果、竪穴住居址・溝状遺構・土坑等の遺構が発見されたため、文化財保護協議を実施し、埋蔵文化財委託契約締結後、佐久市教育委員会が主体となり、遺跡が発見された進入道路・浸透枒・擁護壁部分の発掘調査を行った。なお、宅地面は盛土による工事であることから、今回の開発では調査対象外とした。

2. 文化財保護手続き

平成26年9月26日	土木工事のための埋蔵文化財発掘調査の届出（93条書類）
平成26年10月6日	周知の埋蔵文化財包蔵地における土木工事等について（通知）
平成26年11月7日	試掘調査等終了報告（県・事業主体者）
平成26年12月4日	発掘調査終了報告
平成26年12月4日	埋蔵物発見届
平成26年12月15日	文化財の認定及び県帰属について（通知）

3. 調査体制

調査受託者

佐久市教育委員会 教育長 楊澤晴樹

事務局

社会教育部長	山浦俊彦					
文化財課長	三石宗一					
文化財調査係長	比田井清美					
文化財調査係	小林真寿	富沢一明	上原学	神津一明	久保浩一郎	
嘱託職員	林幸彦					
調査主任	森泉かよ子					

調査担当者 上原学

調査員 赤羽根篤 赤羽根充江 浅沼勝男 飯森成英 岩崎重子 岩松茂年
小幡弘子 木内修一 小林節子 羽毛田利明 比田井久美子 武者幸彦
横尾敬雄 渡辺学

第2節 発掘作業の経過

1. 発掘作業

① 遺跡の名称と記号

事業予定地は、佐久市岩村田字西大門先に所在し、佐久市遺跡詳細分布図により、岩村田遺跡群に含まれる。字名が西大門先であることから遺跡名を西大門先遺跡とし、略号は「IDS」とした。

② 遺構の名称と記号

H－竪穴住居址（地面を円形や方形に掘りくぼめ、柱穴・炉・カマド等を備えた住居と考えられるもの。佐久市では明らかに平地住居と考えられる遺構は発見されていない。）

D－土坑（地面を円形や方形に掘りくぼめたもので、陥穴・貯蔵穴・ゴミ穴等と考えられるもの。ピット・竪穴状遺構と区別するため、径または長辺が0.5m以上3m未満とした。）

M－溝状遺構（地面を溝状に掘り下げたもので、環濠・水路・道路・堀等と考えられるもの）

Pーピット（地面を円形や方形に掘りくぼめ、柱状のものを立てたと思われるもの。土坑と区別するため、径が0.5m未満とした。）

(3) 調査区の設定

調査区上に国家座標（世界測地系）に基づく40×40mの大グリッドを設定し、これを更に4×4mの小グリッドに分割した交点に木製の遺構測量用基準杭を打設した。（頭部に釘設置）

グリッド名は、大グリッドを北から南方向にひらがな（あ～こ）、東から西方向に数字（1～10）に分割した。

また、調査箇所が、3箇所に分かれていることから、西側をA区、東側をB区、北側をC区とし、グリッド名をA区-1-あグリッドのようにした。

(4) 調査の方法

調査は、試掘確認調査後の状態から遺構検出作業を実施し、一部必要箇所を手掘りにより遺構確認面まで表土除去を行った。基準杭は調査開始後に事業主体者側によって打設した。検出した遺構は命名後、掘り下げ作業を開始した。住居址のうち可能なものは4区画（Ⅰ～Ⅳ区）に分割し、対角のⅠ・Ⅲ区にL字状のサブレンチを設定し、床面まで掘り下げ分層する。分層後Ⅰ・Ⅲ区を層ごとに床面まで掘り下げた後、残りのⅡ・Ⅳ区を掘り下げた。調査箇所が一部である遺構は1区画又は2区画とした。床面検出後は、壁溝・ピット等を掘り下げた。写真撮影、平面図作成を実施した後、住居址掘方の掘り下げ、写真撮影及び図面の追加作成を行った。遺物は、区画ごとに取り上げた。遺跡・遺構の全体写真は各遺構の調査が終了した時点で撮影した。遺構の平面図作成は調査区内に設定した基準杭を利用した通り方測量により、調査担当・調査員が実施し、縮尺は1:20を基本とした。写真撮影は担当者が行い、デジタル一眼レフカメラと35mmフィルム一眼カメラによるカラーリバーサルで行った。

(5) 日誌

平成26年11月4・5日 埋蔵文化財試掘調査。

- 11月7日～ 文化財保護協議。遺構の発見された進入道路部分・浸透枡・擁護壁にかかる遺構の発掘調査を実施し、宅地面については埋土による造成であることから調査対象外とした。
- 11月11日 埋蔵文化財委託契約。
- 11月12日～14日 調査準備・機材搬入。
- 11月17日 調査員による発掘調査開始。A区遺構検出作業。M1・2号溝状遺構、D1号土坑掘り下げ。検出面から深さ30cm程度で湧水が認められる。水をかき出しながらの調査となった。M1東端から土器・石器出土。
B区検出作業。M3・4・5号溝状遺構掘り下げ。
- 11月18・19日 M3・4・5号溝状遺構掘り下げ。検出面から30cm程度で湧水。水中ポンプを使用しての調査となった。H4号住居址掘り下げ。
H1・2・5号住居址検出作業。一部掘り下げ開始。
C区掘り下げ。M3・4号溝状遺構掘り下げ。東側でM4に切られるH3の掘り下げ作業。C区全体清掃・写真撮影。
- 11月20日 H1・2・5号住居址掘り下げ。H1号住居址床直上からは多数の土器が出土。H2号住居址内からD2号土坑発見。掘り下げ作業。
- 11月21日 H1号住居址平面図作成。H2・3号住居址炉跡調査。住居址等セクション図作成。B区全体清掃後写真撮影。
- 11月27日 M3・4・5号溝状遺構、H2・3・5号住居址平面図作成。H2号住居址掘方掘り下げ。
- 11月28日 H1・2号住居址掘方掘り下げ。写真撮影。H2の床下から、小型住居址の主柱穴と思われるピット及び炉跡を発見。炉跡調査。機材撤収開始。
- 12月1日 機材撤収・機材整理作業。

2. 整理作業

(1) 整理の内容

整理作業は雨天による現場作業中止時及び現場作業終了後に実施した。（図面整理・図面修正、写真整理、遺構・遺物図版作成、遺物洗浄、遺物注記、遺物接合・補修修復、遺物実測、遺物写真撮影、

割付本作成、原稿執筆、印刷製本、遺物・図面収納作業。)

遺物実測は調査員が1/1で鉛筆実測したものを、1/2でトレースし、報告書掲載時の縮尺を基本的に1/4とした。

遺構図版は、1/40で鉛筆による仮割付を行った後、トレースを実施し、報告書掲載時の縮尺を基本的に1/80とした。

報告書の原稿はマイクロソフト社製「ワード」、表原稿はマイクロソフト社製「エクセル」を使用した。

(2) 資料の収納

作業が終了した図面は、原因・印刷用図版一式をファイルに収納、写真はアルバムに収納したネガデータと共に文化財課耐火収納庫に保管した。遺物は、報告書掲載図版と照らし合わせ、遺構ごとにコンテナへ入れた後、報告書使用遺物と未使用遺物を分けて文化財課遺物保管施設に収納した。

(3) 日誌

平成 26 年 11 月 21・25 日	図面整理・修正、写真整理、遺物洗浄・注記作業。
12 月 8 日～12 月 26 日	図面修正、遺物接合・補修・実測・拓本作業。
平成 27 年 1 月 5 日～1 月 19 日	原稿執筆・校正作業。遺物写真撮影。遺構・遺物・写真図版作成。
平成 27 年 1 月 28 日	原稿入稿。
平成 27 年 3 月	佐久市埋蔵文化財調査報告書 第 233 集 岩村田遺跡群 西大門先遺跡刊行。

第 II 章 遺跡の立地と環境

第 1 節 地理的環境

佐久地域は、周辺を山地台地に囲まれた盆地状を呈し、一般に佐久平と呼ばれ、北には雄大な浅間山、南には蓼科山が存在する。東には群馬県との境を成す北関東山脈の北端が延び、西は御牧原・八重原といった小高い台地が広がり、蓼科山の裾野と接している。佐久地域における水系の代表は、南方の川上谷に源を発す千曲川であり、北流しながら支流を集めつつ水量を増して佐久平に入る。その後野沢付近から流れを北西に変え、蓼科山麓の支流を集めた片貝川、浅間山の麓に源を発す湯川、関東山地からの支流を集めた滑津川といった河川と合流し、蛇行しながら上田、長野方面に貫流する。この山地に囲まれ、水にも恵まれた盆地状の佐久平は、地質学的に見ると大きく二分することができ、志賀川と滑津川が合流し、さらに千曲川と川筋を一つにする東西線を境として、河川の北側段丘上と南側では 20 m 前後の比高差が認められる。この北部地域は北方の浅間山麓部の緩やかな台地で、浅間の噴出物である火砕流軽石流と降下火山灰が厚く堆積している。この堆積物は雨水による浸食に弱く長い年月の間に深く削り取られ、浅間山の麓から放射状に幾筋もの浸食谷（田切り地形）を形成している。

これに対し南部地域は千曲川の氾濫源沖積地と滑津川の谷口扇状地等で、河床礫層と沖積粘土層地帯が主となり地下水位も高く、地盤の安定した土地である。このため南部一帯は広く水田として利用されていた。今回調査を実施した、西大門先遺跡は岩村田市街地の南方、佐久市北部地域の浸食谷（田切り地形）に挟まれた南北方向に細長い台地南端付近の、標高 698 m 内外に位置する。



岩村田遺跡群西大門先遺跡位置図(1:6,000)

第2節 歴史的環境

縄文時代-北東方向の湯川右岸に所在する上ノ城遺跡(37)で落とし穴、中期の土器片、石錘・石錐・石斧、下信濃石遺跡(34)で早期の狩猟文土器片、湯川左岸の寺垣遺跡Ⅱ・Ⅲ(17・18)から草創期の八咫文土器が出土している。付近ではまとまった集落的な遺跡は確認されていない状況である。

弥生時代-前期は湯川右岸の下信濃石遺跡(34)でまとまった実質が出土している。土器底部2点の放射性炭素年代測定では2,400±30、2,440±30という年代が得られている。また、湯川対岸の左岸に所在する仲川遺跡(18)では副都府に由来する土器が出土している。中期後学から遺跡の数が増加する。代表的な遺跡として西八日町遺跡、真一本柳遺跡、北一本柳遺跡、西一本柳遺跡、北西の久保遺跡(23)が所在し、宮の前遺跡(36)では後期の住居址と共に、後期の土器を多く含む東西方向の溝状遺構が確認されている。また南の道路改良に伴う調査では、西一本柳遺跡Ⅳ(10)から中期-後期34軒、北一本柳遺跡Ⅲ(10)から後期48軒の住居址及び溝状遺構等の遺構が多数発見されている。湯川右岸の端部に形成された微高地上に大規模な集落が展開していたと考えられる。

古墳時代-古墳時代前期は弥生時代中期後半から急激に遺跡数が増加したにもかかわらず、佐久市内における遺跡の数が減少する。集落の規模も小規模なものが多く、本遺跡周辺では湯川左岸である左岸の今井西原遺跡(池田外)で4世紀の集落が認められる。遺跡数が増加するのはカマドが住居内に導入され始める中期後半(5世紀後半)前後になってからである。代表的な遺跡に西八日町遺跡、真一本柳遺跡、北一本柳遺跡、西一本柳遺跡、北西の久保遺跡(23)、上ノ城遺跡(37)がある。また、5~7世紀の古墳も点在しており、南方の真一本柳古墳(32)では金銅製の馬具が出土している。さらに、西方の墳丘を消失した6世紀代の北西の久保17号墳(23)巨溝内からは人物(成人・巫女)、動物(馬・高鳥)、器財(盾・鏡)等の埴輪が多数出土し、貴重な資料となっている。

奈良・平安時代-古墳時代後半の遺跡が所在する地域とほぼ同じ遺跡に所在することが多く、遺跡数も多い。湯川対岸の仲川遺跡(18)から寺院跡を思わせる奈良時代の八咫鏡(花弁双螺八咫鏡)、寺の文字が土器表面に墨で書かれた墨書土器が出土している。

中世・近世-中世には北方の湯川右岸縁辺の断崖に沿って大井氏の城である大井城(6)(北から石並城・主城・扇岩城)が築城され岩谷一帯は城下町として栄えていた。しかし、戦国期の文明16年(1484)に村上氏の攻撃を受けると、幾度となく戦乱に巻き込まれ、衰退の一途をたどったとされている。周辺の発掘例としては、南の道路改良に伴い行われた西一本柳遺跡Ⅳ(10)、北一本柳遺跡Ⅲ(10)等の調査があり、堅穴状遺構、土坑、溝状遺構が多数発見されている。

近世中期以降になると岩村日地域は城下町であると共に宿場町としてふたたび栄えていった。江戸時代末期にはそれまでの障壁が手狭となり、湯川右岸に藩ヶ城(33)が築城されたが、明治維新によって完成に至らなかった。本丸周辺は岩村田小学校となっており、土塁・石垣等一部が残存している。

No.	遺跡名	所在地	縄	古	中	近	備考
1	西大門先遺跡	岩村田西大門先		○		○	今川調査
2	西八日町遺跡Ⅰ	岩村田西八日町		○			S58年度調査
3	西八日町遺跡Ⅳ	岩村田西八日町		○	○	○	H19~21年度調査 佐久市第175案
4	上の城遺跡	岩村田上の城		○	○		S48年度調査 「うえのこよう」
5	観音堂跡	岩村日観音堂		○	○	○	H8年度調査 佐久市第70案
6	大井城跡	岩村日		○	○	○	S89~91年度調査 「大井城跡」
7	内西原遺跡Ⅰ	岩村田内西原		○	○	○	H5年度調査
8	内西原遺跡Ⅱ	岩村田内西原		○	○	○	H12年度調査
9	柳葉遺跡	岩村田柳葉		○	○	○	H10年度調査 佐久市第85案
	西一本柳遺跡Ⅳ	岩村田もろ王		○	○	○	H16~15年度調査 佐久市第175案
	北一本柳遺跡Ⅱ	岩村田北一本柳		○	○	○	H18~21年度調査 佐久市第175案
10	東大門先遺跡Ⅱ	岩村田東大門先		○	○	○	H18~22年度調査 佐久市第175案
	西八日町遺跡Ⅱ	岩村田西八日町		○	○	○	H19~22年度調査 佐久市第175案
	西八日町遺跡Ⅲ	岩村田		○	○	○	H19~20年度調査 佐久市第175案
11	真一本柳遺跡	岩村田真一本柳		○	○	○	S/3年度調査
12	北一本柳遺跡	岩村田北一本柳		○	○	○	S/6~7年度調査 郷土の文化財4
13	北一本柳遺跡Ⅱ	岩村田		○			H16年度調査 年報14
14	西一本柳遺跡Ⅰ	岩村田西一本柳		○	○	○	E3~4年度調査 佐久市第34案
15	中西ノ久保遺跡Ⅰ	岩村田中西ノ久保		○	○	○	T4年度調査 佐久市第37案
	西一本柳遺跡Ⅱ	岩村田西一本柳		○	○	○	H4年度調査 佐久市第37案

周辺遺跡表(1)

No	遺跡名	所在地	縄	弥	古	歴	中	近	備考
16	西一本柳遺跡Ⅲ・Ⅳ	岩村田一本柳他		○	○	○			H7-8年度調査 佐久市第73集
17	寺壇遺跡Ⅰ	狭久保下原	○						H6年度調査 佐久市第40集
18	寺壇遺跡Ⅱ	狭久保寺壇	○	○	○	○			H7年度調査 佐久市第66集
	神田遺跡	狭久保神田		○	○	○	○		H7年度調査 佐久市第66集
	中西ノ久保遺跡Ⅱ	岩村田中西ノ久保		○	○	○			H7年度調査 佐久市第66集
19	神田遺跡Ⅲ	狭久保神田		○	○				H18年度調査 佐久市141集
20	松の本遺跡Ⅰ・Ⅱ	岩村田松の木		○					H8-9年度調査 佐久市第91集
	中長塚遺跡Ⅰ・Ⅱ	岩村田中長塚							H8-10年度調査 佐久市第91集
	西一本柳遺跡Ⅴ・Ⅵ	岩村田下樋田		○	○	○			H8-9年度調査 佐久市第91集
21	中西の久保遺跡Ⅲ	岩村田中西の久保他		○	○	○			H9年度調査
22	中西の久保遺跡Ⅳ	岩村田中西の久保他							H10年度調査
23	北西の久保遺跡・古墳群	岩村田北西ノ久保		○	○	○	○		S5759年度調査 「北西の久保」
24	西一本柳遺跡Ⅶ	岩村田常木		○	○				H10年度調査 年報8
25	西一本柳遺跡Ⅷ	岩村田下樋田					○		H14年度調査 佐久市113集
26	西一本柳遺跡Ⅸ	岩村田下樋田		○	○	○			H15年度調査 年報14
27	西一本柳遺跡ⅩⅠ	岩村田		○					H15年度調査 年報13
28	西一本柳遺跡ⅩⅡ	岩村田下樋田		○	○	○			H16年度調査 佐久市第125集
29	西一本柳遺跡ⅩⅢ	岩村田下樋田		○	○	○			H16年度調査 佐久市第139集
30	西一本柳遺跡ⅩⅣ	岩村田常木上		○	○	○			H19年度調査 佐久市第154集
31	西一本柳遺跡ⅩⅤ	岩村田		○	○				H20年度調査 佐久市第160集
32	東一本柳古墳	岩村田東一本柳							S46年度調査 東一本柳古墳緊急発掘調査報告書11
33	藤ヶ城	岩村田							
34	下信濃石遺跡	岩村田下信濃石他	○	○			○		H16年度調査 佐久市第134集
35	西八日町遺跡Ⅳ	岩村田西八日町		○	○	○			H26年度調査 佐久市第227集
36	宮の前遺跡	岩村田宮の前		○					H18年度調査 佐久市第140集
37	上ノ城遺跡	岩村田上ノ城		○	○	○			H14年度調査 佐久市第111集

周辺遺跡表(2)



周辺遺跡位置図(1:11,000)

第3節 発見された遺構と遺物

遺構 竪穴住居跡・5軒(弥生時代4軒、不明1軒)溝状遺構・5条(弥生時代3条、中世1条、不明1条)

土坑・2基(弥生時代)ピット・5個

遺物 弥生土器(壺・甕・鉢・高坏) 石器・石製品(環状石斧・すり石・敲石)

土製品(土製円盤・瓦片)

第4節 基本層序

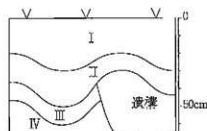
遺跡は、浅間の麓から放射状に延びる浸食谷に挟まれた「田切り」地形の頗長い台地末縁近くに立地する。この付近は、現在の浅間山が形成される過程で噴出した軽石流が基盤となっており、この上面を現在の変土が覆っている。今回調査を実施した地域の基本層序は以下のとおりである。

I層は層厚20~30cmを測る黒褐色土の耕作土上層で、しまり・粘性が少ない。

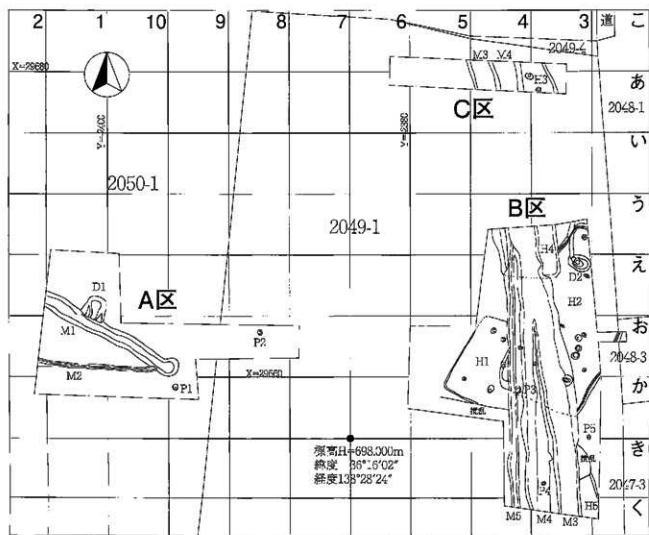
II層は層厚10~20cmを測る暗褐色土の耕作土下層で、しまり・粘性が少ない。地域によっては認められない箇所がある。

III層は層厚10cmを測る耕作土とロームの中質層の褐色土である。遺構は本上層から掘り込まれているが不鮮明である。

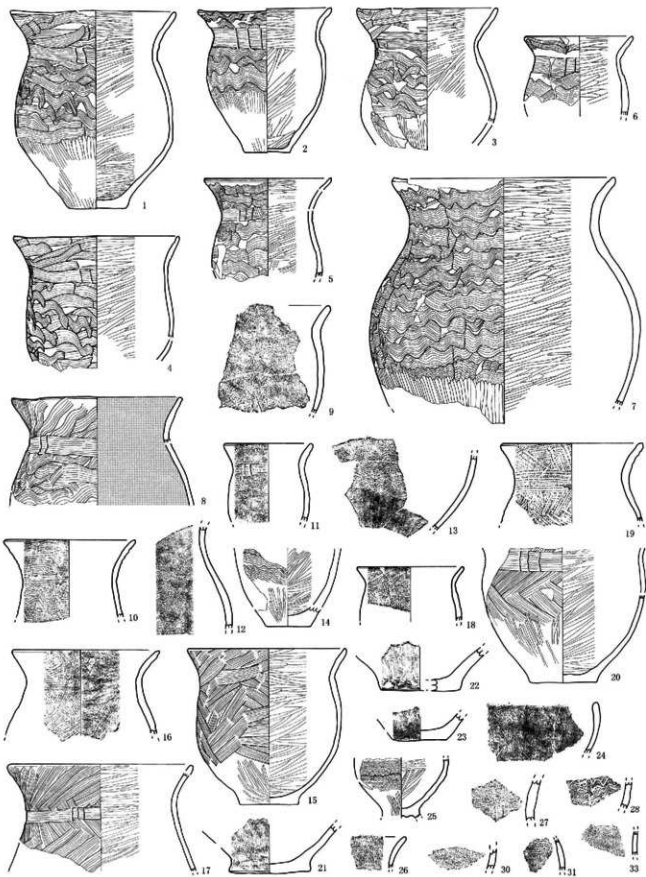
IV層は浅間山の噴出物である第一軽石流の黄褐色ロームである。遺構確認は、II層上面から掘り込まれているが、不鮮明なため明確に確認できるIV層上面で行った。



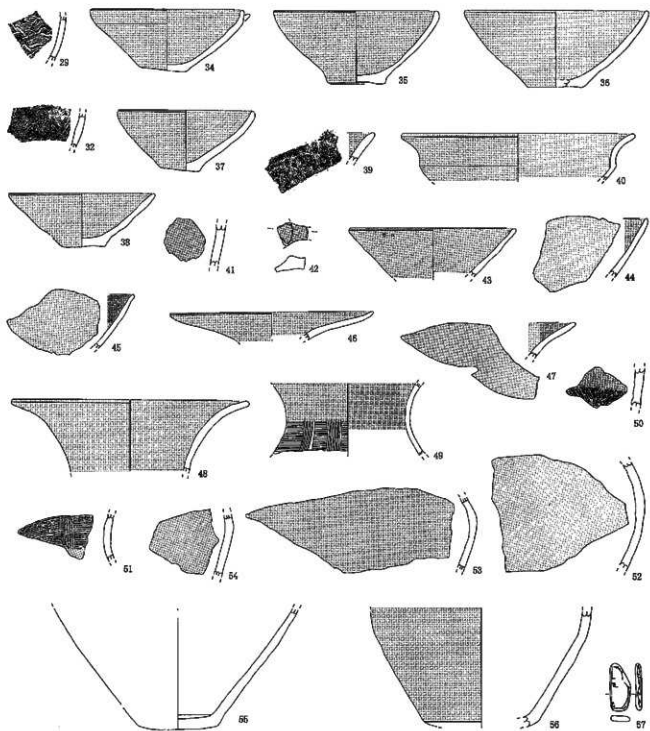
基本層序模式図



西大門先遺跡遺構配置図 (1:250)



H1号住居址遗物实测图(1)



H1号住居址遺物実測図(2)

番号	器名	形状	口径cm	底径cm	器高cm	柄・文・跡	残存面/断面	備考
1	弥生土器	甕	15.1	5.8	20	外壁・口縁・肩上半部縦指状文、胴部斜線状文、肩下半部縦指状文	96	外壁75YR5/2灰褐色地、口縁区、底面区
2	弥生土器	甕	14.2	4.8	15.3	外壁・口縁・肩上半部縦指状文、胴部斜線状文、肩下半部縦指状文	96	外壁75YR5/2C灰褐色地、底面区
3	弥生土器	甕	15.1	-	<18.0	外壁・口縁・肩上半部縦指状文、胴部斜線状文、肩下半部縦指状文	60	外壁75YR6/4褐色地、底面区、口縁区
4	弥生土器	甕	17.4	-	<14.0	外壁・口縁・肩上半部縦指状文、胴部斜線状文、肩下半部縦指状文	80	外壁75YR5/2C灰褐色地、底面区、口縁区
5	弥生土器	甕	13.5	-	<10.0	外壁・口縁・肩上半部縦指状文、胴部斜線状文、肩下半部縦指状文	50	外壁75YR5/2C灰褐色地、底面区、口縁区
6	弥生土器	甕	11.8	-	<8.5	外壁・口縁・肩上半部縦指状文、胴部斜線状文、肩下半部縦指状文	40	外壁75YR5/1褐色地、底面区、口縁区

H1号住居址遺物観察表(1)

番号	種別	形状	口径cm	底径cm	高さcm	調査文書	残存率・部位	備考
7	弥生土器	壺	[23.6]	-	<24.2>	外内面 口縁・胴上部輪状文・胴下部ミガキ 横ミガキ	破片→口縁破片	外周5YR6/31・赤褐色 10%残存
8	弥生土器	壺	18	-	<11.6>	外内面 口縁・胴下部縦やかな條線状文・胴部輪状文 赤色塗彩	胴部→口縁破片	内周5YR6/31・赤褐色 完全残存・一部欠損
9	弥生土器	壺	-	-	-	外内面 輪状文 内面 横ミガキ	胴部→口縁破片	外周5YR6/31・赤褐色 破片・表面
10	弥生土器	壺	[13.9]	-	<8.2>	外内面 縦やかな條線状文・胴部輪状文 内面 横ミガキ	胴部→口縁破片	内周5YR6/31・赤褐色 完全残存
11	弥生土器	壺	[9.6]	-	<8.3>	外内面 輪状文・胴部輪状文 内面 横ミガキ	胴部→口縁破片	外周5YR6/31・赤褐色 完全残存
12	弥生土器	壺	-	-	-	外内面 輪状文 内面 横ミガキ	胴部→口縁破片	外周5YR6/31・赤褐色 破片・表面
13	弥生土器	壺	-	-	-	外内面 輪状文・縦ミガキ 内面 横ミガキ	胴部破片	外周5YR6/31・赤褐色 破片・表面
14	弥生土器	壺	-	4.9	<8.3>	外内面 輪状文・ミガキ 内面 横ミガキ	底部→胴下部破片	外周5YR6/31・赤褐色 完全残存・一部欠損
15	弥生土器	壺	17	6.2	16.5	外内面 口縁・胴上部輪状文・胴下部ミガキ 内面 ミガキ	底	外周5YR6/31・赤褐色 完全残存・一部欠損
16	弥生土器	壺	[15.6]	-	<9.1>	外内面 口縁・胴部輪状文・胴部輪状文 内面 横ミガキ	胴部→口縁破片	外周5YR6/31・赤褐色 10%残存
17	弥生土器	壺	[19.6]	-	<11.6>	外内面 口縁・胴部輪状文・胴部輪状文 内面 横ミガキ	胴部→口縁	外周5YR6/31・赤褐色 完全残存
18	弥生土器	壺	[11.4]	-	<5.8>	外内面 口縁・胴部輪状文・内面 横ミガキ	口縁破片	外周5YR6/41・赤褐色 5%残存
19	弥生土器	壺	[19.2]	-	<8.3>	外内面 口縁・胴部輪状文・胴部輪状文 内面 横ミガキ	胴部→口縁破片	外周5YR6/31・赤褐色 完全残存
20	弥生土器	壺	-	7.1	<14.3>	外内面 胴部上半輪状文・下部ヘラミガキ・胴部輪状文 ミガキ	底	外周5YR6/31・赤褐色 完全残存・一部欠損
21	弥生土器	壺	-	8.5	<5.2>	外内面 ミガキ・やや湾曲 内面 ミガキ	底部→胴一部	外周5YR6/31・赤褐色 完全残存・一部欠損
22	弥生土器	壺	-	[8.3]	<1.6>	外内面 横ミガキ 内面 ヘラナデ 底部本遺存	底部→胴一部	外周5YR6/31・赤褐色 10%残存
23	弥生土器	壺	-	0.8	<2.8>	内面 ミガキ 内面 ミガキ	底部→胴一部	外周5YR6/31・赤褐色 完全残存・一部欠損
24	弥生土器	鉢	-	-	-	外内面 ヘラナデミガキ 内面 横ミガキ	口縁破片	外周5YR6/31・赤褐色 完全残存
25	弥生土器	台付壺	-	-	<6.4>	外内面 胴部上半輪状文・下部ミガキ 内面 ナデ	底部下部破片	外周5YR6/31・赤褐色 完全残存・一部欠損
26	弥生土器	壺	-	-	-	外内面 輪状文 内面 ミガキ	口縁破片	外周5YR6/31・赤褐色 完全残存
27	弥生土器	壺	-	-	-	外内面 輪状文・輪状文 内面 ナデ・波線部多い	胴部破片	外周5YR6/31・赤褐色 完全残存
28	弥生土器	壺	-	-	-	外内面 輪状文 内面 ミガキ	破片	外周5YR6/31・赤褐色 完全残存
29	弥生土器	壺	-	-	-	外内面 輪状文 内面 ミガキ	破片	外周5YR6/31・赤褐色 完全残存
30	弥生土器	壺	-	-	-	外内面 輪状文 内面 ミガキ	破片	外周5YR6/31・赤褐色 完全残存
31	弥生土器	壺	-	-	-	外内面 輪状文 内面 ミガキ	破片	外周5YR6/31・赤褐色 完全残存
32	弥生土器	壺	-	-	-	外内面 輪状文 内面 ミガキ・ナデ	破片	外周5YR6/31・赤褐色 完全残存
33	弥生土器	壺	-	-	-	外内面 輪状文 内面 ミガキ	破片	外周5YR6/31・赤褐色 完全残存
34	弥生土器	鉢	16.2	5.1	6.5	内外面 赤色塗彩 片口	底	外周5YR6/31・赤褐色 完全残存
35	弥生土器	鉢	17.4	6	7.2	内外面 赤色塗彩	60	内外周5YR6/31・赤褐色 完全残存
36	弥生土器	鉢	[19.4]	[5.7]	8.1	内外面 赤色塗彩 内面 溝状	40	外周5YR6/31・赤褐色 10%残存
37	弥生土器	鉢	[14.6]	4.1	6.5	内外面 赤色塗彩	60	外周5YR6/31・赤褐色 完全残存
38	弥生土器	鉢	[15.2]	4.6	5.7	内外面 赤色塗彩・表面磨耗	20	外周5YR6/31・赤褐色 10%残存
39	弥生土器	高坏	-	-	-	内外面 赤色塗彩・表面磨耗	口縁破片	外周5YR6/41・赤褐色 表面磨耗
40	弥生土器	高坏	[24.6]	-	-	内外面 赤色塗彩	口縁破片	外周5YR6/41・赤褐色 表面磨耗
41	弥生土器	土製内輪	54.5	99.1	-	外内面 赤色塗彩 内面 ナデ	破片使用	外周5YR6/41・赤褐色 表面磨耗
42	弥生土器	土製高	-	-	-	外内面 赤色塗彩	破片	外周5YR6/41・赤褐色 表面磨耗
43	弥生土器	鉢	[17.7]	-	-	内外面 赤色塗彩・口縁摩耗孔あり	口縁破片	外周5YR6/41・赤褐色 10%残存
44	弥生土器	鉢	-	-	-	内外面 赤色塗彩	口縁破片	外周5YR6/41・赤褐色 表面磨耗
45	弥生土器	鉢	-	-	-	内外面 赤色塗彩	口縁破片	外周5YR6/41・赤褐色 表面磨耗
46	弥生土器	鉢	[21.6]	-	-	内外面 赤色塗彩	口縁破片	外周5YR6/41・赤褐色 表面磨耗
47	弥生土器	鉢	-	-	-	内外面 赤色塗彩	口縁破片	外周5YR6/41・赤褐色 表面磨耗
48	弥生土器	甕	[26.4]	-	-	内外面 赤色塗彩・やや磨耗	口縁破片	外周5YR6/41・赤褐色 表面磨耗
49	弥生土器	甕	-	-	<7.8>	口縁部内外赤色塗彩・やや磨耗・頸部輪状文・垂下文	胴部1/2破片	外周5YR6/41・赤褐色 10%残存
50	弥生土器	甕	-	-	-	外内面 赤色塗彩・胴部折込文 内面 ナデ	胴部破片	外周5YR6/41・赤褐色 表面磨耗
51	弥生土器	甕	-	-	-	外内面 赤色塗彩・胴部輪状文・垂下文 内面 ナデ	胴部破片	外周5YR6/41・赤褐色 表面磨耗
52	弥生土器	甕	-	-	-	外内面 赤色塗彩 内面 ナデ	胴部破片	外周5YR6/41・赤褐色 表面磨耗
53	弥生土器	甕	-	-	-	外内面 赤色塗彩 内面 ヘラナデ	胴部破片	外周5YR6/41・赤褐色 表面磨耗
54	弥生土器	甕	-	-	-	外内面 赤色塗彩 内面 輪状目取ナデ	胴部破片	外周5YR6/41・赤褐色 表面磨耗
55	弥生土器	甕	-	8.7	<12.8>	外内面 横ミガキ・やや湾曲 内面 ナデ・一部磨耗	底部→胴部破片	外周5YR6/41・赤褐色 完全残存・一部欠損
56	弥生土器	甕	-	[12.2]	-	外内面 赤色塗彩・やや湾曲 内面 ナデ・やや磨耗	底部→胴部破片	外周5YR6/41・赤褐色 10%残存
番号	種別	数量	最大径(cm)	最大幅(cm)	最大高(cm)	調査文書	重量(g)	備考
57	石製	すり石	5.1	2.1	0.6	全体に磨りかすりあり	11.08	

H1号住居址遺物観察表(2)

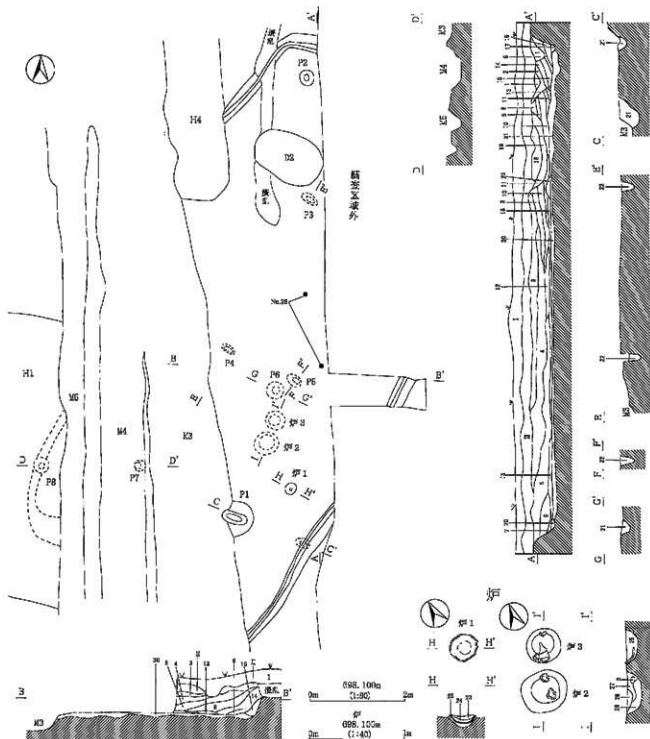
II 2号住居址

遺構はB区-3-おグリッドに位置し、H4、M3・4に切られ、H1、D2を切る。M5との新間は確認できなかった。主軸はN 32° Wである。遺構の東側は調査区域外となる。

平面形態は調査状況から、僅かに隅に丸みを持った長方形である。

調査規模は長軸約 12.1 m、短軸は調査範囲の最大で 6.1 mを測る人型住居址である。検出面から床面までの深さは 30cmを測る。

覆土は周囲から堆積した状況が認められることから自然堆積と考えられる。



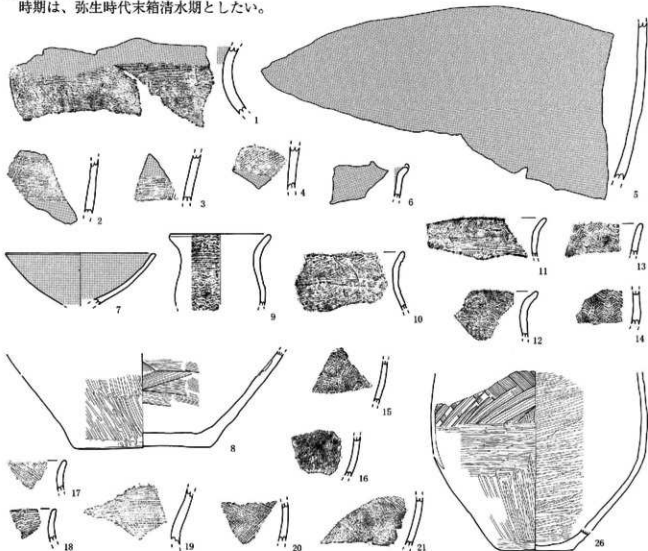
II 2号住居址遺構実測図

- 1 暗褐色土層 (10YR3/3) ローム、礫石。
- 2 黒褐色土層 (10YR2/2) ローム、礫石。
- 3 黒褐色土層 (10YR2/1) ローム細粒、礫石、炭化物。
- 4 暗褐色土層 (10YR3/3) ローム、礫石やや多い、炭化物。
- 5 暗褐色土層 (10YR3/4) ローム、礫石多い、炭化物。
- 6 黒褐色土層 (10YR2/3) ローム、礫石少量。
- 7 暗褐色土層 (10YR2/2) ローム、ロームブロック、礫石。
- 8 暗褐色土層 (10YR2/3) ローム、礫石、炭化物。
- 9 暗褐色土層 (10YR2/4) ローム主体、暗褐色土。
- 10 暗褐色土層 (10YR2/3) ローム、礫石、炭化物。
- 11 暗褐色土層 (10YR2/4) ローム、礫石、炭化物。
- 12 黒褐色土層 (10YR2/2) ローム、ロームブロックや多い。
- 13 暗褐色土層 (10YR3/4) ローム、ロームブロック、礫石、炭化物。
- 14 黒褐色土層 (10YR2/2) ローム、礫石少量。
- 15 暗褐色土層 (10YR4/0) ローム主体、暗褐色土。

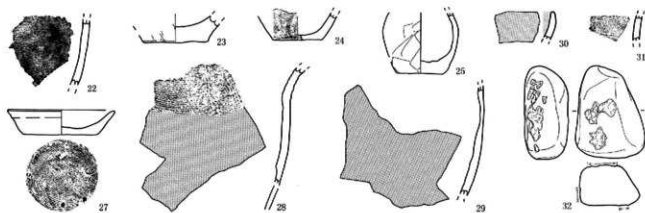
- 16 暗褐色土層 (10YR3/3) ローム、礫石少量。
- 17 暗褐色土層 (10YR4/0) ローム主体、礫石なし。
- 18 暗褐色土層 (10YR3/3) ローム、礫石少量。
- 19 暗褐色土層 (10YR3/4) ローム、礫石少量。
- 20 暗褐色土層 (7.5YR3/4) ロームと暗褐色土の混合土。
- 21 暗褐色土層 (7.5YR3/3) ローム、礫石、炭化物。
- 22 暗褐色土層 (7.5YR4/0) ローム主体、暗褐色土。
- 23 暗褐色土層 (7.5YR3/3) ローム、礫石、炭化物、炭。
- 24 暗褐色土層 (10YR2/2) 炭化物、炭、礫石。
- 25 暗褐色土層 (7.5YR2/2) ロームブロック、礫石、炭化物。
- 26 暗褐色土層 (7.5YR3/3) ローム、礫石。
- 27 暗褐色土層 (7.5YR4/4) ローム多い、ロームブロック、炭化物。
- 28 暗褐色土層 (7.5YR2/2) ローム、礫石、炭化物。
- 29 赤褐色土層 (5YR4/6) ローム赤灰。
- 30 赤褐色土層 (5YR4/6) ローム主体、暗褐色土。
- 31 暗褐色土層 (7.5YR4/0) ロームと暗褐色土の混合土。

構造上の特徴として、床面は硬質で、壁際に幅15cm、深さ5cm内外の壁溝が存在する。主柱穴はP1及びM4に上部を破壊されたP7と思われる。北側のピットは位置的にD2に破壊され、残りは調査区域外に存在すると考えられる。炉跡はP1の北東80cmに位置する。壺の底部を利用した土器埋設炉である。通常、主となる炉は北壁側の主柱穴間に存在することから、今回発見された炉は補助的なものであろう。掘方は弥生時代後期の住居にしては厚く、ローム主体の黄褐色土が埋め込まれていた。掘方直下からは、本住居址と軸を同じくする、住居址の主柱穴と思われる楕円形のP3・4・5及び円形に並んで掘り窪められた2個の炉跡が存在した。住居址の拡張または建て替え等が行われた可能性が窺える。遺物は弥生土器(甕、壺、鉢、高坏)が出土した。大半が破片資材であり、全体の形状が残る個体は見当たらない。

時期は、弥生時代末箱清水期としたい。



H2号住居址遺物実測図(1)



H2号住居址遺物実測図(2)

番号	器種	器形	口径cm	底径cm	器高cm	調査文様	残存部位	備考
1	弥生土器	壺	-	-	-	1. 胎面・内面の色塗彩 外底 粟津織法線文・櫛目線文 内面 ナテ	胎面破片	外底1004・84・棕色 胎面・底面
2	弥生土器	壺	-	-	-	外底 赤色塗彩, 胎面・胎体線文・垂下文 内面 ナテ, やや磨耗	胎面破片	外底1004・9赤色塗 胎面・底面
3	弥生土器	壺	-	-	-	外底 赤色塗彩, 胎面・胎体線文・垂下文 内面 ナテ, やや磨耗	胎面破片	外底25YR4赤赤褐色 胎面・底面
4	弥生土器	壺	-	-	-	外底 赤色塗彩, 胎面・胎体線文 内面 磨ミガキ	胎面破片	外底5YR6/41・赤い・褐色塗 胎面・底面
5	弥生土器	壺	-	-	-	外底 赤色塗彩 内面 ナテ	胎面破片	外底25YR4赤赤褐色 胎面・底面
6	弥生土器	高坏	-	-	-	内外面 赤色塗彩	1. 胎面破片	内外底1004・8赤色 胎面・底面
7	弥生土器	鉢 [15片]	-	-	-	内外面 赤色塗彩	25	内外底1003・6赤色 胎面・底面
8	弥生土器	壺	144	<101>	-	外底 ミガキ 内面 磨ミガキナテ	底面・胎面一部	外底5YR6/41・赤い・褐色 完全文様 胎面・底面
9	弥生土器	壺 [10片]	-	-	-	外底 櫛目線文, 胎面・胎体線文 内面 磨ミガキ	1. 胎面・胎体破片	外底7YR6/20赤褐色 胎面・底面
10	弥生土器	壺	-	-	-	外底 櫛目線文, 胎面・胎体線文 内面 磨ミガキ	胎面・胎体破片	外底5YR6/20赤褐色 胎面・底面
11	弥生土器	壺	-	-	-	外底 櫛目線文, 胎面・胎体線文 内面 磨ミガキ	1. 胎面破片	外底5YR6/41・赤い・褐色塗 胎面・底面
12	弥生土器	壺	-	-	-	外底 櫛目線文 内面 磨ミガキ	1. 胎面破片	外底5YR6/41・赤い・褐色塗 胎面・底面
13	弥生土器	壺	-	-	-	外底 櫛目線文 内面 ナテ	1. 胎面破片	外底10YR6/41・赤い・褐色塗 胎面・底面
14	弥生土器	壺	-	-	-	外底 櫛目線文 内面 ナテ	破片	外底5YR6/41赤色 胎面・底面
15	弥生土器	壺	-	-	-	外底 櫛目線文 内面 ナテ	破片	外底7YR6/41赤褐色 胎面・底面
16	弥生土器	壺	-	-	-	外底 櫛目線文, ミガキ 内面 ミガキ	破片	外底7YR6/41赤褐色 胎面・底面
17	弥生土器	壺	-	-	-	外底 櫛目線文 内面 ミガキ	破片	外底7YR6/41赤褐色 胎面・底面
18	弥生土器	壺	-	-	-	外底 櫛目線文 内面 ナテ	破片	外底7YR6/41赤褐色 胎面・底面
19	弥生土器	壺	-	-	-	外底 櫛目線文 内面 ミガキ	破片	外底7YR6/41赤褐色 胎面・底面
20	弥生土器	壺	-	-	-	外底 櫛目線文 内面 ナテ	破片	外底7YR6/41赤褐色 胎面・底面
21	弥生土器	壺	-	-	-	外底 交差する櫛目線文 内面 ミガキ	破片	外底5YR4・2褐色 胎面・底面
22	弥生土器	壺	-	-	-	外底 線文, ミガキ 内面 ミガキ	破片	外底25YR4・赤い・褐色塗 胎面・底面
23	弥生土器	壺Or型	68	<27>	-	外底 ミガキ 内面 ナテ	胎面・胎体一部	外底10YR6/41・赤い・褐色塗 完全文様
24	弥生土器	壺	85(4)	-	-	外底 ミガキ 内面 ナテ	胎面・胎体一部	外底7YR6/41赤褐色 胎面・底面
25	弥生土器	小皿型	47	<54>	-	内外面 ナテ	底面・胎面一部	外底7YR6/41赤褐色 胎面・底面
26	弥生土器	壺	79	<19.1>	-	外底 割上部櫛目線文, 割下部磨ミガキ 内面 ミガキ	胎面・胎体一部	外底7YR6/41赤褐色 胎面・底面
27	かわらけ	坏	114	7.5	2.6	口クロ破ナテ 底面・胎面・胎体	95	外底5YR6/41赤褐色 胎面・底面
28	弥生土器	壺	-	-	-	外底 赤色塗彩, 胎面・胎体線文・垂下文 内面 磨ミガキ	胎面片(胎面)	外底1004・8赤色 胎面・底面
29	弥生土器	壺	-	-	-	外底 赤色塗彩 内面 磨ミガキ	胎面破片	外底5YR6/41赤褐色 胎面・底面
30	弥生土器	鉢	-	-	-	内外面 赤色塗彩	1. 胎面破片	内外底25YR4赤赤褐色 胎面・底面
31	弥生土器	壺	-	-	-	外底 櫛目線文, 胎面・胎体線文 内面 ナテ	破片	外底5YR6/41赤褐色 胎面・底面
番号	器種	器形	最大径(cm)	最大径(cm)	最大径(cm)	調査文様	重量(g)	備考
32	石器	磨き石?	99	7.2	4.3	正面・胎面・胎体(裏面)あり 胎面・胎体・胎底(裏面)によるものかは判別できない	492.32	6/10上

H2号住居址遺物観察表

H3号住居址

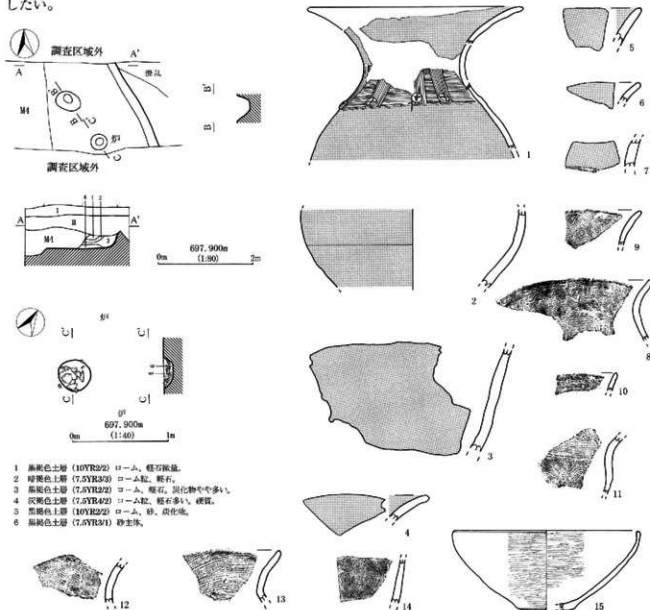
遺構はC区-4-あグリッドに位置し、M4に切られる。主軸はN 22° Wである。平面形態は調査範囲が狭小のため確定できない。調査規模は、南北1.8 m、東西2.0 m、検出面から床面までの深さは24cmを測る。

覆土は地山のローム、軽石を含む暗褐色土・黒褐色土で壁際から徐々に堆積した状況を示すことから自然堆積と考えられる。

構造上の特徴として、床面は硬質面を持つ。ピットは1個確認でき、ピットの南東70cmに細かい土器片を幾重にも敷き詰めた炉跡が存在した。

遺物は、弥生土器（甕、壺、鉢）が出土したが、形状を残すものは少ない。炉に敷き詰められた土器片が接合の結果、壺の形状を示す程度まで復元できた程度である。

時期は、炉から出土した壺の口縁が低く開き、球胴化が認められることから、弥生時代末箱清水期としたい。



- 1 黒褐色土層 (10YR2/2) ローム、軽石散在。
- 2 暗褐色土層 (7.5YR3/3) ローム粒、軽石。
- 3 黒褐色土層 (7.5YR2/2) ローム、軽石、炭化物や多量。
- 4 暗褐色土層 (7.5YR4/2) ローム粒、軽石多い、硬質。
- 5 暗褐色土層 (10YR2/2) ローム、砂、炭化物。
- 6 黒褐色土層 (7.5YR3/1) 砂主体。

H3号住居址遺構・遺物実測図

番号	器種	器形	口径cm	底径cm	器高cm	面数・文様	残存率・部位	備考
1	弥生土器	甕	22	-	<15>	外面 赤色塗彩、腹部黒色塗彩文・垂下文、内形硬質文 内面 土質赤色塗彩、彫刻文	30	外底2Y4.6赤褐色 完全復元—口縁部
2	弥生土器	壺	-	-	<8.2>	外面 赤色塗彩 内面 ナメ、やや磨光	断面破片	外底10R4.8赤色 口縁部
3	弥生土器	甕	-	-	-	外面 赤色塗彩 内面 ナメ、やや磨光	断面破片	外底10R5.8赤色 断面部
4	弥生土器	壺	-	-	-	内外面 赤色塗彩	1片破片	内外底10R4.8赤色 断面部
5	弥生土器	壺	-	-	-	内外面 赤色塗彩	口縁破片	内外底10R4.8赤色 断面部

H3号住居址遺物観察表(1)

番号	器種	器形	口径cm	底径cm	高さcm	断面文様	残存部位	備考
6	弥生土器	碗?	-	-	-	外面 赤色塗彩	口縁破片	外周 105/84内 底面実測
7	弥生土器	蓋	-	-	-	外面 赤色塗彩、刺蝋模文	瓶蓋破片	外周135/46底面 底面実測
8	弥生土器	蓋	-	-	-	外面 刺蝋模文、刺蝋模線状文	胴部~口縁破片	外周125/46底面 底面実測
9	弥生土器	甕	-	-	-	外面 刺蝋模文	口縁破片	外周157/74に 底面実測
10	弥生土器	甕	-	-	-	外面 刺蝋模文	口縁破片	外周125/56底面 底面実測
11	弥生土器	甕	-	-	-	外面 刺蝋模文、刺蝋模線状文	頸部口縁破片	外周175/74底面 底面実測
12	弥生土器	甕	-	-	-	外面 刺蝋模文	胴破片	外周157/51底面 底面実測
13	弥生土器	甕	-	-	-	外面 刺蝋模文	口縁破片	外周175/73に 底面実測
14	弥生土器	甕	-	-	-	外面 ミガキ	胴破片	外周175/73に 底面実測
15	弥生土器	鉢	18.8	13	8.3	外面 ミガキ	底面	底面実測

H3号住居址遺物観察表(2)

II 4号住居址

遺構はBⅩ-4-エグリッドに位置し、M3・4・5に切られる。主軸はN9°Wである。

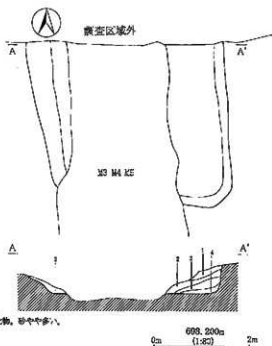
平面形態は、調査範囲から方形または長方形と思われる。調査規模は、南北3.2m、東西2.0m、検出面から床面までの深さは60cmを測る。

覆土は二層から黒褐色土、暗褐色土、褐色土が層状に堆積している。自然堆積と考えられる。

棟造上の特徴として、床面と考えられる底面は、やや硬質である。ピット、炉等は確認できなかった。

遺物は弥生土器・須恵器の破片が数点出土したが本遺構に伴うかには断定できない。

時期は中世と考えられるM3に切られることから、中世期または、これより時代が遡る遺構である。



- 1 黒褐色土層 (10YR2/6) ロームブロック、砂、炭化物、砂。
- 2 暗褐色土層 (10YR2/6) ローム、ロームブロック、砂、炭化物、砂や多量。
- 3 暗褐色土層 (10YR2/6) ロームと砂、暗褐色土の割合多。
- 4 褐色土層 (7.5YR2/6) ローム主体。

H4号住居址遺構・遺物実測図

番号	器種	器形	口径cm	底径cm	高さcm	断面文様	残存部位	備考
1	須恵器	蓋	-	-	-	外面 叩き、自然磨光	蓋破片	外周185/46底面 底面実測

II 4号住居址遺物観察表

H5号住居址

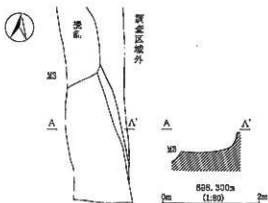
遺構はBⅩ-3-くグリッドに位置し、北偏を大きく掘削に破壊され、西側は溝状遺構に破壊される。主軸はN12°Wである。

平面形態に調査範囲が狭小のため確定できない。

調査規模は、南北2.7m、東西1.1m、検出面から床面までの深さは45cmを測る。

ピット、炉等は認められなかった。

時期は不明である。



II 5号住居址実測図

第2節 溝状遺構 (M)

M1号溝状遺構

遺構はA区-2-え~A区-9-おグリッドに位置し、M2に切られ、D1を切る。東端はやや北側に張り出し、消滅する。

調査規模は、長さ9.4m、検出面上での幅0.8~1.2m、底幅40~60cmを測る。

近年、周辺の開発により以前より地下水の水位が上昇し、検出面下20~30cmで湧水が認められる。

遺物は、弥生土器の甕・壺・鉢が出土した。特徴的な遺物として、東端付近から弥生土器の壺、礫、1/2を欠損した環状石斧が出土した。

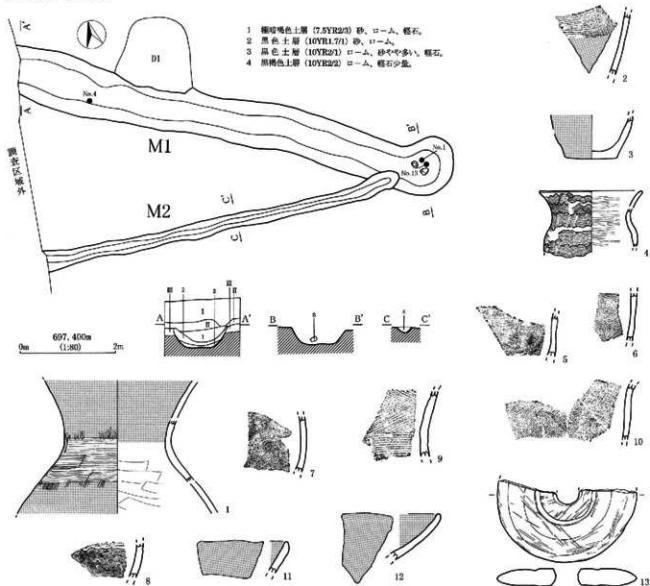
時期は、出土遺物から弥生時代後期箱清水期としたい。

M2号溝状遺構

遺構はA区-2-お~A区-10-おグリッドに位置し、M1を切る。

調査規模は、長さ7.6m、検出面上での幅30~36cm、底幅10~15cm、検出面から底面までの深さは12cm内外を測る。

遺物は出土しなかった。時期は断定できないが、弥生時代後期のM1を切ることから弥生時代後期以降の遺構である。



番号	部	種	形状	口径cm	底径cm	高さcm	調査・文	残存率・部位	備考
1	弥生土器	甕	-	-	<14.2	外面 赤色塗料、やや密長による色落ち、器形特徴不明 内面 白磁土色塗料、ナガ	調査	別紙写真	外径2.5Y5/6明褐色土色塗料、底面土色 外底10R4/6赤褐色 断面裏面
2	弥生土器	甕	-	-	-	外面 赤色塗料、器形特徴不明・底下文 内面 黒毛目状ナガ	調査	別紙写真	外底10R4/6赤褐色 断面裏面
3	弥生土器	小皿器	-	5.4	<4.6	外周底部 赤色塗料 内面 ナガ	調査	底部一部	外底10R4/6赤褐色 完全欠損、底面土色
4	弥生土器	甕	10.8	-	<6.0	外面 黒漆文 内面 黒ミガキ	調査	40	外底5YR2/1黒褐色土色 完全欠損、底面土色
5	弥生土器	甕	-	-	-	外面 黒漆文・文、器形特徴不明 内面 ミガキ	調査	器形不明	外底5YR6/6赤褐色 断面裏面
6	弥生土器	甕	-	-	-	外面 黒漆文・文 内面 ミガキ	調査	破片	外底5YR6/6赤褐色 断面裏面
7	弥生土器	甕	-	-	-	外面 黒漆文・文 内面 ミガキ	調査	破片	外底5YR3/3赤褐色 断面裏面
8	弥生土器	甕	-	-	-	外面 黒漆文・文、器形特徴不明 内面 ミガキ	調査	破片	外底2.5Y4/6赤褐色 断面裏面
9	弥生土器	甕	-	-	-	外面 黒漆文・文、器形特徴不明 内面 黒漆	調査	破片	外底5YR7/3赤褐色 断面裏面
10	弥生土器	甕	-	-	-	外面 黒漆文・文 内面 ミガキ	調査	器形不明	外底5YR4/7褐色 断面裏面
11	弥生土器	鉢	-	-	-	内外面 赤色塗料	調査	口縁破片	外底10R5/6赤褐色 断面裏面
12	弥生土器	鉢	-	-	-	内外面 赤色塗料	調査	口縁破片	外底10YR4/6赤褐色 断面裏面
番号	部	種	形状	最大径(cm)	最大深さ(cm)	重量(g)	調査・文	備考	
13	石	石	環状石斧	14.9	2.2	230.9	中央に25cmの穿孔。表面にすり痕あり。両面中央付近に刃状		

M1号溝状遺構遺物観察表

M3号溝状遺構

遺構はB区-4-1～B区-3-1グリッド及びC区-4-1グリッドの南北に存在し、M4・H2・3・4・5を切る。

調査規模は、B区で長さ19m、検出面上での幅1.6～1.8m、底幅1～1.2m、C区で長さ1.8m、幅1.8m、検出面から底面までの深さは45cm内外を測る。M4・5とはほぼ併走する状態で存在し、B区北側で緩やかに交差し始め、C区では、東西の位置関係が東から西へと入れ替わる。

構造上の特徴として、断面形状は検出面から緩やかであった傾斜が35cm内外の深さで、急な角度に変わり、底幅の広い箱型になる。底面は硬質である。構造の特徴から道路遺構である可能性も考えられる。

遺物は弥生土器片が出土したが数は少なく伴う遺物である可能性は少ない。

時期は、弥生後期の遺構をすべて切っていることから、弥生時代後期以降の溝と考えられる。本調査区南で調査が行われた北一本柳遺跡Ⅱの溝跡は、本遺構の真南に位置し、方向、形状が酷似していることから同一遺構である可能性が高い。時期については中世と報告されている。

M4号溝状遺構

遺構はB区-4-1～B区-3-1グリッド及びC区-4-1グリッドの南北方向に存在し、M3に切られ、M5を切る。

調査規模は、B区で長さ19m、検出面上での幅0.9～1.2m、底幅0.45～0.65m、検出面から床面までの深さは最大で60cm、C区で長さ1.8m、掘り下げ時の幅1.8m、底幅1.6m、検出面から床面までの深さは20cm内外を測る。M3・5とはほぼ併走するように存在し、B区北側で緩やかに交差し始め、C区では、東西の位置関係が西から東へと入れ替わる。

構造上の特徴として、土層断面から、B区では検出面から緩やかな傾斜で掘り込まれ、深さ50cm付近で急角度となり、幅80cm内外、深さ50cmの溝状となる2段掘りである。C区では2段掘りの状況は確認できなかった。深い2段目部分が、M4より深いM3と重なったために消失した可能性も考えられる。遺物は弥生土器片が僅かに出土した。

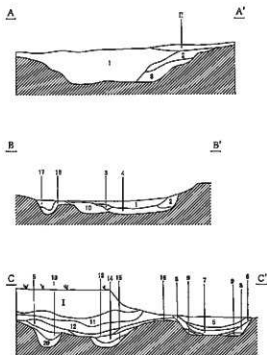
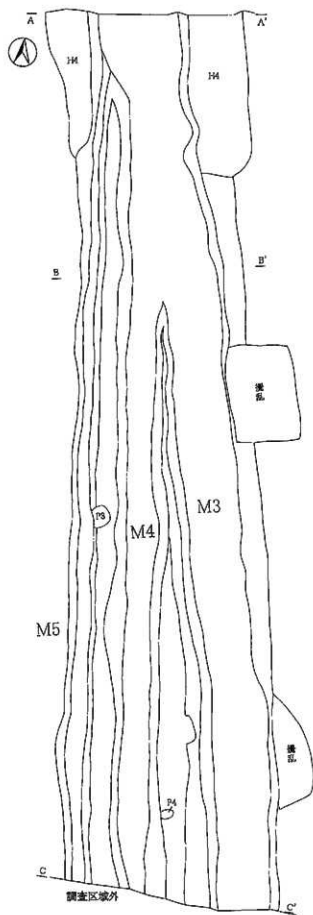
時期は、弥生時代後期のH2を切り、中世と考えられているM3に破壊されていることから、弥生時代後期から中世の間に存在した溝であり、周辺調査で発見されている弥生時代と考えられる環濠の延長上に存在することから、弥生時代後期後半～末としたい。

M5号溝状遺構

遺構はB区-4-1～B区-4-1グリッドに存在し、C区にも位置的に延びる可能性が考えられたが、土層断面からも存在は確認できなかった。M3・4に切られ、ほぼ併走する形で存在することから、C区ではこれらの遺構に完全に破壊された状態である可能性が考えられる。また、H1と切り合い関係があるが、検出段階で覆土の重なりが確認できなかったため不明である。

調査規模は、長さ17m、検出面上での幅0.7～1.2m、底幅0.2～0.4m、検出面から底面までの深さは50cm内外を測り、B区の南から17m地点で、M3・4に切られるように合流し、消滅する。

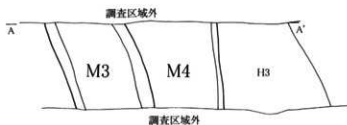
構造上の特徴として、底幅が30cm内外の狭い底面から急な角度で40cm程度立ち上がる。



- M3
- 1 褐色色土層 (10YR5/2) ローム、礫石。
 - 2 灰色・黄褐色土層 (10YR3/2) 砂と黒褐色土の混合土
 - 3 黒褐色土層 (10YR2/2) ローム、礫石。
 - 4 黒褐色土層 (10YR2/2) 礫石、砂、ロームブロック。
 - 5 暗褐色土層 (7.5YR2/2) ローム、砂、礫石。
 - 6 暗褐色土層 (7.5YR2/2) ローム、砂、礫石。
 - 7 暗褐色土層 (7.5YR2/2) ローム、砂、礫石。
 - 8 黒褐色土層 (7.5YR2/2) ローム粒、ロームブロック、砂、礫石。
 - 9 褐色土層 (7.5YR4/0) ローム主体、砂。
- M4
- 10 暗褐色土層 (10YR5/2) ローム、砂、ロームブロック。
 - 11 褐色土層 (10YR1/7) ローム、礫石、砂少量。
 - 12 黒褐色土層 (10YR2/2) ローム、礫石、砂少量。
 - 13 暗褐色土層 (7.5YR2/2) ローム、礫石少量、砂やや多い。
 - 14 黒色土層 (10YR2/1) ローム、礫石、砂少量。
 - 15 褐色土層 (7.5YR4/0) ローム、砂主体。
 - 16 褐色土層 (10YR4/3) ロームと黒褐色土の混合土、ローム、ロームブロック多い。
- M5
- 17 黒褐色土層 (10YR2/2) ローム、砂。
 - 18 褐色土層 (7.5YR4/4) ロームと褐色土の混合土。
 - 19 暗褐色土層 (7.5YR2/2) ローム、砂、礫石少量。
 - 20 暗褐色土層 (7.5YR2/2) ローム、砂やや多い。

0m 695.00m
(1.20) 2m

M3-4-5号溝状遺構(B区)実測図

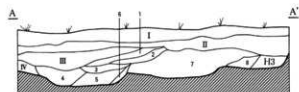


M3

- 1 暗褐色土層 (10YR3/3) ローム粒、軽石やや多い、炭化物。
- 2 黒褐色土層 (10YR3/2) ローム粒、ロームブロック、軽石やや多い。
- 3 黒褐色土層 (10YR2/3) ローム、軽石、炭化物やや多い。
- 4 黒褐色土層 (7.5YR3/2) ローム、ロームブロック、軽石やや多い、ややしまりあり。
- 5 暗褐色土層 (7.5YR3/3) ローム、軽石多い、ややしまりあり。
- 6 褐色土層 (7.5YR4/3) ローム、軽石多い、しまりあり。

M4

- 7 黒褐色土層 (10YR2/3) ローム、軽石少量、炭化物。
- 8 黒褐色土層 (10YR3/2) ローム粒・軽石多い、ややしまりあり。

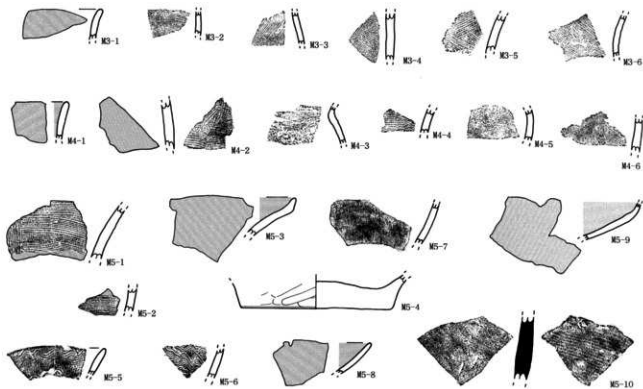


0m 698.500m (1.80) 2m

M3・4号溝状遺構(C区)実測図

遺物は弥生土器が僅かに出土した。

時期は、弥生時代後期後半～末としたM4に切れ、断面形状がややV字の可能性があることから、弥生時代中期後半から後期としたい。



M3・4・5号溝状遺構遺物実測図

番号	器種	器形	口径cm	底径cm	器高cm	調査文様	保存者/部位	備考
M3-1	弥生土器	壺	-	-	-	外面 赤色塗彩 内面 ナデ	口縁破片	外面2.5YR5-6明赤褐色断面実測
M3-2	弥生土器	壺	-	-	-	外面 髹漆波状文 内面 刷毛目状ナデ	破片	外面7.5YR7-6褐色塗断面実測
M3-3	弥生土器	壺	-	-	-	外面 髹漆羽状文、腹部横線文 内面 ナデ	破片	外面7.5YR7/4L-6L褐色断面実測
M3-4	弥生土器	壺	-	-	-	外面 髹漆波状文 内面 ナデ	破片	外面10YR6-2R黄褐色断面実測
M3-5	弥生土器	壺	-	-	-	外面 髹漆羽状文 内面 ミガキ	破片	外面10YR6-6明黄褐色断面実測
M3-6	弥生土器	壺	-	-	-	外面 髹漆羽状文 内面 ミガキ	破片	外面10YR7/4L-6L黄褐色断面実測
M4-1	弥生土器	壺	-	-	-	内外面 赤色塗彩	口縁破片	内外面10R4/6赤色断面実測

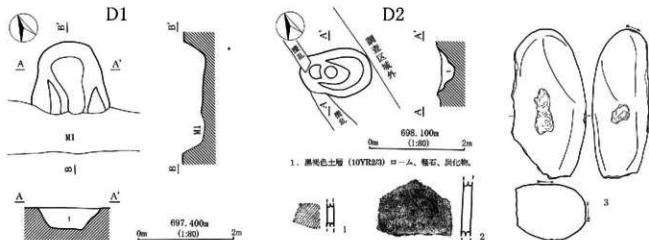
M3・4・5号溝状遺構遺物観察表(1)

番号	器種	器形	口径cm	底径cm	器高cm	調査文様	残存率・部位	備考
M42	弥生土器	壺	-	-	-	外面 赤色塗彩 内面 斑文目状ナデ	破片	外面10YR4/8赤色 裏面黄褐色
M43	弥生土器	壺	-	-	-	外面 磨蝕流状文・泥部磨蝕横線文 内面 ナデ	破片	外面2.5YR5/41.5赤+褐色 斑文目状
M44	弥生土器	壺	-	-	-	外面 磨蝕流状文 内面 ミガキ	破片	外面2.5YR6/41.5赤+褐色 裏面黄褐色
M45	弥生土器	壺	-	-	-	外面 磨蝕流状文、ミガキ 内面 ミガキ	破片	外面2.5YR6/41.5赤+褐色 裏面黄褐色
M46	弥生土器	壺	-	-	-	外面 磨蝕流状文 内面 ミガキ	破片	外面10YR2/741.5赤+黄褐色 裏面黄褐色
M51	弥生土器	壺	-	-	-	外面 磨蝕磨蝕横線文・磨蝕垂下文、赤色塗彩 内面 泥線	底部破片	外面2.5YR6/41.5赤+褐色 磨蝕面黄褐色
M52	弥生土器	壺	-	-	-	外面 磨蝕横線文、赤色塗彩 内面 やや磨耗	底部破片	外面5YR6/41.5赤+褐色 磨蝕面黄褐色
M53	弥生土器	壺	-	-	-	内外面 赤色塗彩	口縁破片	内外面2.5YR4/8赤色 磨蝕面黄褐色
M54	弥生土器	壺?	-	15.7	<3.6>	外面 ナデ 内面 磨耗	底部	外面2.5YR2/341.5赤+褐色 完全黄褐色
M55	弥生土器	壺	-	-	-	外面 磨蝕流状文	破片	外面2.5YR6/29A白色 磨蝕面黄褐色
M56	弥生土器	壺	-	-	-	外面 磨蝕流状文 内面 ミガキ	破片	外面2.5YR6/41.5赤+褐色 裏面黄褐色
M57	弥生土器	壺	-	-	-	外面 ミガキ 内面 ミガキ	破片	外面5YR6/311.5赤+褐色 磨蝕面黄褐色
M58	弥生土器	鉢	-	-	-	内外面 赤色塗彩	口縁破片	内外面2.5YR4/8赤色 磨蝕面黄褐色
M59	弥生土器	鉢	-	-	-	内外面 赤色塗彩	口縁破片	内外面2.5YR4/8赤色 磨蝕面黄褐色
M510	陶器	壺	-	-	-	内面 叩き裏	胴部破片	外面2.5YR4/41.5赤+褐色 裏面黄褐色

M3-4・5号溝状遺構遺物観察表(2)

第3節 土坑(D)

ピットと区別するため、直径50cm以上の掘り込みを土坑として取り扱った。D1はM1に切られ、規模は短軸1.6m、長軸は調査規模で1.6m、深さは50cmを測る。D2はH2の床面付近で確認したが、調査区東壁土層断面から、H2を切ることが確認された。規模は長軸1.6m、短軸1.1m、深さは35cmを測る。

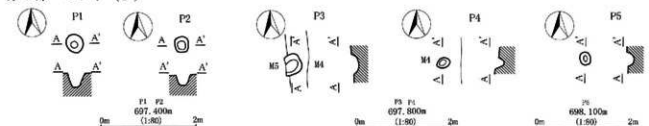


D1・2号土坑遺構、D2号土坑遺物実測図

番号	器種	器形	口径cm	底径cm	器高cm	調査文様	残存率・部位	備考
1	弥生土器	壺	-	-	-	外面 磨蝕文 内面 ナデ	破片	外面10YR6/31.5赤+黄褐色 磨蝕面黄褐色
2	弥生土器	壺	-	-	-	外面 やや磨耗 内面 斑文目状ナデ	破片	外面2.5YR6/29A褐色 裏面黄褐色
番号	器種	器形	最大径(cm)	最大軸(cm)	最大厚(cm)	調査文様	重量(g)	備考
3	石器	礫石	[15.8]	[7.9]	[5.9]	片状破部及び側面欠損 磨面及び正面に縦行面	1023.79	

第4節 ピット(P)

D2号土坑遺物観察表



ピット実測図

第5節 遺構外遺物



遺構外遺物実測図

番号	器種	器形	口径cm	底径cm	器高cm	調査文種	残存率・部位	備考
1	弥生土器	壺	-	-	-	外面 赤色塗彩・櫛状横線文 内面 ナナ	破片	外面10G5/4暗褐色 櫛状文様
2	弥生土器	壺	-	-	-	外面 赤色塗彩・櫛状ノリ色落ち・櫛状横線文 内面 櫛状・道粒	破片	外面2.5YR5/6明赤褐色 櫛状文様
3	弥生土器	高坏?	-	-	-	内外面 赤色塗彩	口縁破片	内外面10R5/6赤色 櫛状文様
4	弥生土器	壺	-	-	-	外面 櫛状波状文 内面 ナナ・ミダキ	頸部周辺破片	外面10YR6/4Lに赤・黄褐色 櫛状文様
5	弥生土器	壺	-	-	-	外面 櫛状波状文・櫛状横線文・口唇部残目? 内面 ミダキ	口縁破片	外面7.5YR7/6褐色 櫛状文様

遺構外遺物観察表



調査区遠景(南西から)



A区全景(南東から)



B区全景(南から)



C区全景(西から)



A区調査風景(東から)



B区調査風景(南から)



A区遺構検出状況(南東から)



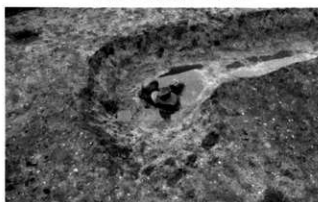
M1号溝状遺構全景(南東から)



M1号溝状遺構遺物出土状況1



M1号溝状遺構遺物出土状況2



M1号溝状遺構遺物出土状況3



D1号土坑全景(東から)



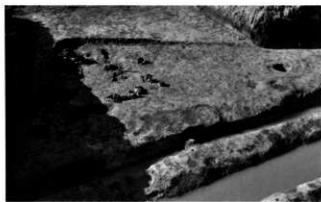
H3号住居址、M3・4号溝状遺構全景(東から)



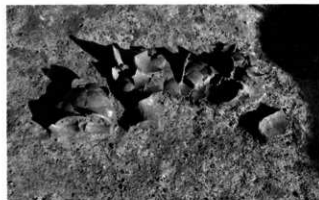
H3号住居址炉跡(東から)



B区遺構検出状況(南から)



H1号住居址全景(東から)



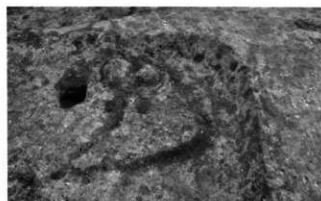
H1号住居址遺物出土状況1



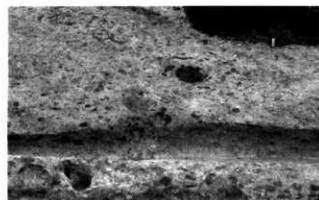
H1号住居址遺物出土状況2



H1号住居址遺物出土状況3



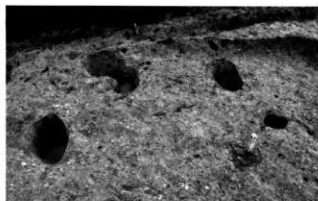
H1号住居址粘土塊出土状況(北から)



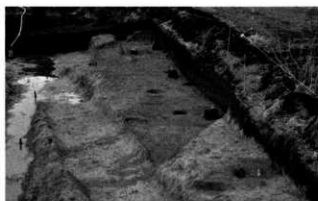
H1号住居址北側主柱穴・炉跡周辺(東から)



H1号住居址全景 遺物除去後(東から)



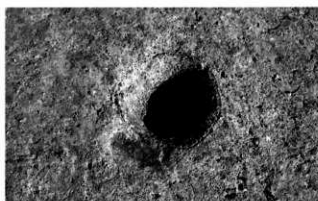
H1号住居址南壁周辺ピット(北から)



H2号住居址全景(南から)



H2号住居址炉跡



H2号住居址炉跡掘方



H2号住居址遺物出土状況



H2号住居址掘方全景(南西から)



H2号住居址床下炉跡確認状況



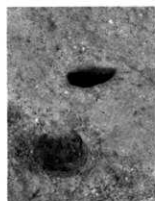
H2号住居址床下炉跡



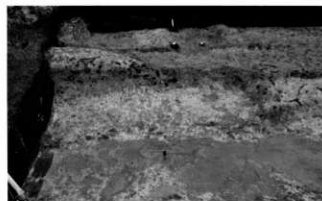
H2号住居址南西コーナー掘方(東から)



H2号住居址床下ビット1 H2号住居址床下ビット2



H2号住居址床下ビット3 H2号住居址ビット



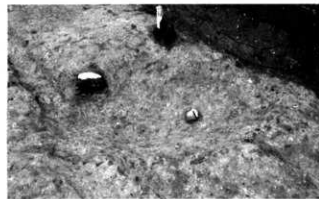
H4号住居址全景(西から)



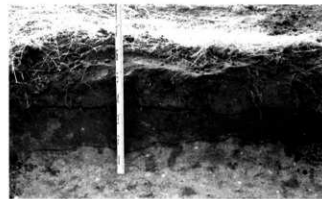
H5号住居址全景(西から)



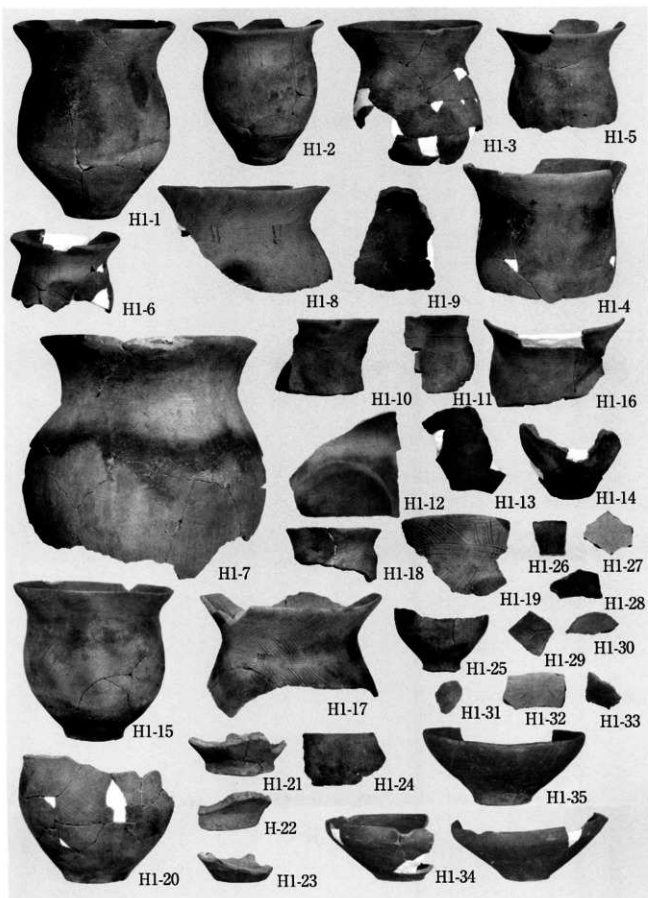
B区M3・4・5号溝状遺構全景(北から)

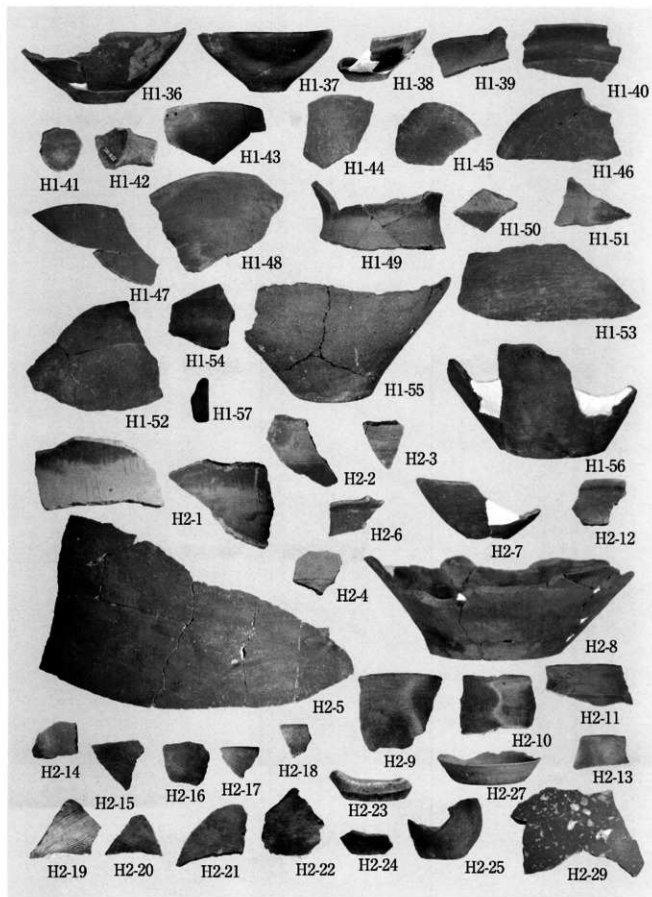


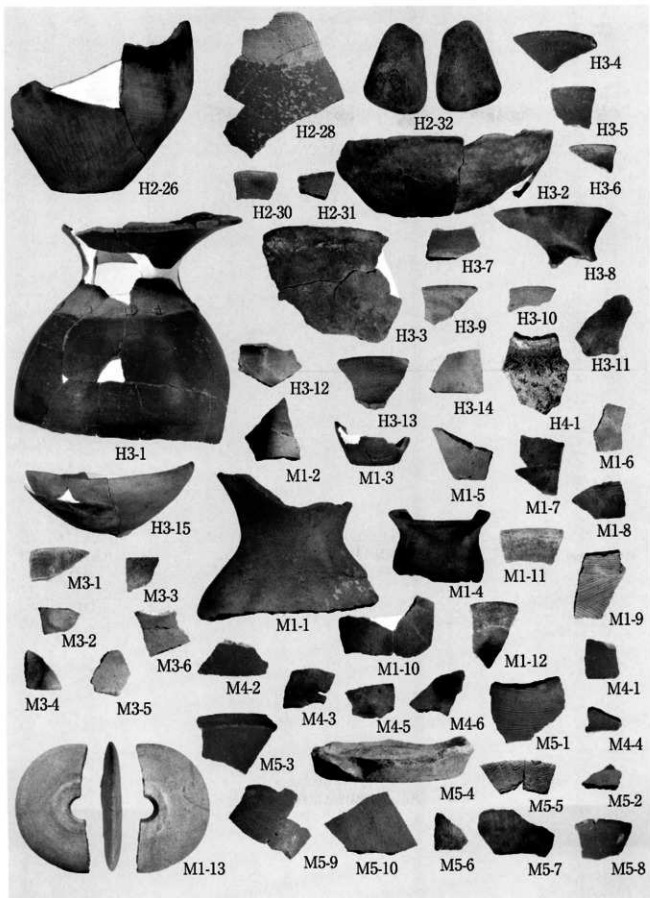
D2号十坑全景(南西から)



基本層序(B区東壁面)









ふりがな	いわむらだいせきぐん にしだいもんさきいせき							
書名	岩村田遺跡群 西大門先遺跡							
副書名	-							
シリーズ名	佐久市埋蔵文化財調査報告書							
シリーズ番号	第233集							
編者名	上原 学							
編集機関	佐久市教育委員会文化財課							
所在地	長野県佐久市志賀 5953 ℡ 0267-68-7321 FAX 0267-68-7323							
発行年月日	平成 27 年 (2015) 3 月							
ふりがな	ふりがな	コード	北緯	東経	発掘期間	発掘面積㎡	発掘原因	
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号					
いわむらだいせきぐん にしだいもんさきいせき	さくしいわむらだ あだにしだいもんさき	2017	52	36° 16' 02"	138° 28' 24"	20141111 ~ 20141201	270	宅地造成
岩村田遺跡群 西大門先遺跡	佐久市岩村田 字西大門先 2046-1 2050-1							
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項			
岩村田遺跡群 西大門先遺跡	集落	弥生	竪穴住居址 5 軒、溝状遺構 5 条、土坑 2 基、ピット 5 個	弥生土器、石器・石製品、土製品	弥生時代後期の集落及び弥生・中世の溝状遺構が発見された。			
要約	岩村田市街地南西の湯川から比高差約 20 m を測る台地付近に展開する遺跡である。本遺跡が所在する湯川右岸の台地縁辺付近は遺跡の密集地域として周知され、弥生時代から中世に至る幅広い時代の遺跡が多数所在している。今回の開発地域からは、試掘確認調査によって弥生時代後期後半の集落が展開することが判明し、また、弥生時代及び中世に掘り込まれたと考えられる南北方向の溝状遺構が発見された。弥生時代の溝状遺構については、周辺の発掘調査において、今回発見された遺構を含め、断片的ではあるが環状となるであろう状況が見受けられる。また中世の溝状遺構については、箱形状でやや浅く、底面が幅広いの硬質であることから、道路遺構である可能性も考えられる。							

佐久市埋蔵文化財調査報告書 第233集

岩村田遺跡群 西大門先遺跡 (I D S)

平成27年(2015)3月

編集・発行 長野県佐久市教育委員会
〒385-8501 長野県佐久市中込3056
文化財課
〒385-0006 長野県佐久市志賀5953
電話 0267-68-7321

印刷所 株式会社 佐久印刷所